

## 著書紹介

# Academic Library

著者自らが新刊を紹介します。



### 「関係とコミュニケーション —講座社会言語科学第3巻—」

コミュニケーション学部准教授 小川一美(共著)  
▶A5判/178ページ/ひつじ書房/3360円/  
2009.1.29発行

▶本書では、日常の行為としての伝達をあるがままに捉えようとした、社会言語学、心理学、コミュニケーション学的研究が紹介されている。執筆した「ダイナミックな対人関係」では、コミュニケーション行動と対人認知や親密化過程との関係などに関する心理学の研究動向を紹介した。



### 「端役で光る源氏物語」

文学部教授 久保朝孝・  
文学部講師 外山敦子(共編)  
▶四六判/270ページ/世界思想社/2415円/  
2009.1.30発行

▶これまで見逃されていた〈端役〉に焦点を当て、端役論の視点から各場面を読み直すことによって、物語の陰影・迫真性・生動感を浮き彫りにする。多様な端役が存在によって、源氏物語がますます光り輝く作品であることが明らかになる。気鋭の源氏研究者12人による分担執筆。



### 「『信長公記』を読む」

文学部教授 阿部一彦(共著 堀 新編)  
▶四六判/270ページ/吉川弘文館/2940円/  
2009.2.1発行

▶織田信長の伝記のなかで歴史的な史料として信頼性の高い『信長公記』を文学作品として、周辺の軍記物語をも視野に入れつつ多様に読み解いたものである。「歴史と古典」シリーズの1冊で、一般的な入門書である。「信長・秀吉像の変遷」を担当した。



### 「ジェンダーの交差点 —横断研究の試み—」

現代社会学部教授 石田好江/現代社会学部准教授 小川明子/文学部教授 平林美都子/ビジネス学部准教授 福本明子/現代社会学部准教授 藤井麻湖/文化創造学部准教授 若松孝司/元医療福祉学部講師、現同志社大学社会学部講師 永田祐

▶四六判/270ページ/彩流社/3150円/  
2009.2.25発行  
▶本学の平成19・20年度特別教育研究助成を授与し、成果として本書を出版。専任教員7名(1名は元)による本書は、ジェンダー視点から個々の研究を再構築する試みであり、社会政策学、政治学、メディア学、コミュニケーション学、英文学、文化人類学にまたがる学際的な研究書である。



### 「レファレンスサービスのための 主題・主題分析・統制語彙」

愛知淑徳大学図書館(編集)/鹿島みづき(著)/山口純代、小嶋智美(執筆協力)/山田稔(編集協力)

▶B5版/212ページ/勉誠出版/2,625円/  
2009.3.10発行  
▶図書館のレファレンスサービスでは、質問を広く深く多角的にとらえることが重要となる。本書は、そのプロセスが主題分析と密接に関わることに焦点を当て、レファレンスサービスにおける主題分析と統制語彙の活用を、豊富な実例とともに示している。